

2021年度 事業報告書

(2021年9月から2022年8月まで)

特定非営利活動法人 亘理いちごっこ

1. 事業概要

2022年3月までは、① コミュニティ・レストラン事業（サロン活動、製造、グッズ販売を含む）、② 子どもサポート事業 ③ 家庭的保育事業【わたり家庭保育園いちごっこ】運営、④ 生活サポート事業 ⑤ 音楽による地域交流事業【陽だまり事業】を行ってきた。これまで運営してきた＜陽だまり弦楽アカデミー＞は、一般財団法人陽だまりハーモニーの事業へと移行し、一部、業務を受託する形で引継ぎを行った。

当方の柱としてきた＜食を通したコミュニティ活動＞、＜健康維持食の普及活動＞を、2022年3月に区切りをつけた。被災した多くの飲食店が再建を果たしたこと、コロナ下における食を介したコミュニティの困難性、事業の精鋭化などが主な理由である。

子どもサポート事業に関しては、前年度に＜寺子屋いちごっこ＞を閉じ、Watalinkが新たな方向性で子どもたちの学習サポートを行っている。ある程度の利用料を頂きながら、場所の提供をさせていただいている。学習面以外では、長期休暇における学童保育や、ポニーキャンプを計画していたが、コロナの影響により、2022年7月にポニーキャンプを実施することどまった。

次に各事業について報告する。

2. 各事業詳細

(1) コミュニティレストラン事業（概ね2022年3月まで実施）

- ① 高齢世帯、独居老人宅への午後を中心としたお弁当配達、被災地域老人会や就労支援作業施設へのお弁当配達が主な事業であった。
- ② 上記ユーザーの固定化が進んできたこともあり、以降述べる【生活サポート事業】の中で、食の提供を行うようになった。
- ③ サロン活動は、コロナ感染拡大に伴い思うように実施することができなかったが、《らくらく茶飲み》で地域を取りまとめてくれていたメンバーが、様子を見ながら少人数の中実施。県外から寄せられたフルーツや野菜を届けることができた。
- ④ 徐々に大学祭や学園祭等が行われつつある。そのような中、当方のスイーツが復活して取り上げていただくようになってきている。お中元等での利用も見られた。



3月2022年			
1日	黒豆玄米ご飯 (or 白米) カツ煮 ポテトサラダ ゆかり和え	4日	五目寿司 鯖味噌煮 旨め おひたし
15日	黒豆玄米ご飯 (or 白米) 豚肉野菜巻き ナポリタン 黒ひたし	18日	エビピラフ グラタン 煮物 野菜サラダ
29日	黒豆玄米ご飯 (or 白米) 煮込みハンバーグ 含め煮 海苔サラダ	8日	黒豆玄米ご飯 (or 白米) 鮭のホイル焼き 干菜炒め 菜の花からし和え
		11日	炊き込みご飯 肉団子 漬物と野菜の味噌汁 のり和え
		22日	黒豆玄米ご飯 (or 白米) 鶏肉の磯辺フライ 豚肉と大根の含め煮 中華和え
		25日	鯖飯 肉じゃが 野菜かき揚げ 餅の飾

いちごっこレストラン散歩道をご利用のみなごほうび

これまでのご愛顧、心より感謝申し上げます。2021年、東日本大震災をきっかけに、わたしたち「NPO法人亘理いちごっこ」は立ち上がりました。

「あたたかな、パランスの取れた手作り食の提供」。健康維持食を提供すること、そして人が語り合える場を作っていくことを目的としてきました。たくさんの方々に利用していただき、十日目を迎えます。

この節目で、お弁当配達を含め、レストラン事業を終わりにすることになりました。これまで応援くださり本当にありがとうございました。

レストラン事業に一つの区切りを設けますが、変わらず「コミュニティ事業」、「福祉事業」を継続してまいります。

その時、その場所に必要なことを、これからも精進しながら展開してまいります。これからも変わらず見守っていただくことができました。心から感謝いたします。

どうぞよろしくお願いたします。

2022年3月
特定非営利活動法人 亘理いちごっこ
代表理事 馬場 隆子



- ⑤ 《いちごっこヨガサロン》は地域のサークルとして自律したサークル運営を行っている。
- ⑥ 花をモチーフとした活動を行っている《Ring 38》が、当方施設を利用して、「花とアート ワークショップ」を開催した。

【助成元】 ・年賀寄付金配分事業(2021 年度)

(2) 子どもサポート事業

- ① コミュニティレストラン事業と同様、当法人立上りのころから活動してきた《寺子屋いちごっこ事業》は、当法人としての活動を昨年度から停止し、これまで寺子屋を担ってきたスタッフが、独自に「Watarink」を立ち上げ、中高生の学習面のサポートを行っている。
- ② 《長期休暇の学童見守り》は、保護者から開催の打診を受けたが、コロナ感染拡大に伴い、下調査段階で人数が集まらないことから開催を見送った。
- ③ ここ3年ほど中止を余儀なくされていた《ポニーキャンプ in 亘理》であったが、2022年7月23～25日 子どもたち16名と(公財)ハーモニセンター職員2名、カウンセラー3名が参加した。亘理いちごっこをメイン会場として有意義な時を過ごすことができた。

参加メンバーは、コロナ前から参加している子も多く、大きな期待をもって参加してくれた。中には中学生になっている子どもたちもあり、「高校生になったらカウンセリングになって、みんなのお世話をしたい！」といううれしい声も聞かれた。



【助成元】 ・大阪コミュニティ財団(202、2022 年度)

【協力】 ・一般財団法人 ハーモニセンター

家庭的保育事業【わたり家庭保育園いちごっこ】

- ① 2018年の立上から丸4年を迎えようとしている。



先生たちの手作りが多く並ぶ教具

亙理町からの委託を受け、定員5名という家庭的環境の中、保育を進める。

《保育は保教育である》という理念の下、モンテ
タ保育を実践する。その年度ごとに子どもの様子も様々に変化し、その都度
その都度「必要な保育は何であるか」、「今日はこの子どものかかわる
ことがベストであるか」など、スタッフ一人一人が、考え実践する環境を作
っている。



西側から見た園庭

- ② コロナ時代となってしまったため、地域子育て親子との交流を図りながら行ってきた《わらべうたと文学あそび》は実施することができなかった。その代わり、普段の園生活の中で、ふんだんにわらべうたを取り入れ、心身の健康を図った。
- ③ 絵本や紙芝居を使った読書活動も日常的に実施。園の蔵書を貸出する活動も続けている。日常的に絵本に親しむ子どもたちの様子が見られている。



お昼寝前、洋服を自分できれいにたたみます



秋空のもとよちよちさんといもほり大会



お友達同士でもわらべうた

- ④ 保護者からの個別相談にも応じ、行政との連携を図っている。
- ⑤ 《安心安全な食の提供》はコミュニティレストラン事業だけではなく、保育事業にも息づいている。地産地消を心掛けた食材の調達・出汁をふんだんに使った一つ一つ手作りの調理。好き嫌いなく、しっかりと食べる子が増えている。
- ⑥ 恒例の《いもほり大会》。2021年10月、同じく「家庭的予備事業所 よちよち」と、良いお天気のもと思いっきりどろんこを堪能した。掘り当てた大きなさつま芋に歓声が上がった。
- ⑦ 2021年10月（公財）ハーモニセンターのみなさんが、ポニーを連れてき、ふれあいの機会を頂く。



2022年3月 終わりのつどい



2022年4月 はじまりのつどい



(3) 生活サポート事業

亘理町からの受託事業【亘理町生活援助サービス（以下、「受託事業」する）】を2020年4月より地域生活支援サポーター事業所として活動を開始する。

だが、町からの受託事業で対応できるのは、要介護認定（要支援1・2、事業対象者）を受けた方であり、その中でも介護保険制度に含まれる作業しか行えない。

その枠組み以外の困りごとが地域には多く存在しているため、それらの困りごとに対応し解決していくため、【家事代行サービス 生活家事のお手伝い（以下、「家事代行」とする）】を受託事業と同時期に開始する。

「受託事業」と「家事代行」の2つの事業を柱として、地域住民が安心してより良い生活を送るためのコミュニティ・仕組みの構築を図る。

【主な活動】

a. 地域の周知及び困りごと解決のための広報活動

地域住民と地域の事業所へ通年広報を行い、チラシ等を掲示していただいた。

その効果もあり問い合わせ等が増え、受託事業では増減はあったが5名の方から依頼をいただくことができ、実施件数は96件となった。

家事代行では実施件数が120件となった。



b. 情報収集・連携のための行政・介護施設へのヒアリング等

行政や地域の介護施設に定期的にヒアリングを行い、情報収集を図った。

その結果行政や介護施設から困りごとを抱えている方の紹介があった。

実施件数の約半数は行政や介護施設からの紹介であり、利用につながった。

c. 利用者のニーズに合わせた生活サポート対応

利用者には色々な困りごとや身体を悪くされている方が多くいた。そういった方たちの希望に応えるよう定期的にスタッフミーティングを行い対応した。利用者からは多くの満足の声をいただいた。



- 【助成元】
- ・大阪コミュニティ財団(2021、2022年度)
 - ・年賀寄付金配分事業(2021年度)

(4) 音楽による地域交流事業【陽だまり事業】

① 《 震災にも コロナにも 負けないぞ！コンサート Vol.2 》開催

音楽による心の復興を目指し、そのための準備・練習・広報活動を行った。

演奏者を募集する際には、一般参加応募とし、老若男女問わず募集することで世代間交流を図った。

また演奏者・鑑賞者ともに、宮城県を中心に広く参加を呼びかけることで、地域内外交流・被災地の現状発信を図った。

演奏参加者は25名となり、鑑賞者はWEB配信を含め129名となった。



アンケートを実施した結果、「生きがいができた」「心のが安らいだ」などの声をいただいた。再公演の希望もたくさんいただく事ができ、地域に当事業が浸透してきていると感じられた。

また、「コロナで大変な時期だが、今回のコンサートを楽しみに頑張れました」との声もいただくことができ、地域住民の心の健康を支える事ができたと感じられた。



② 《 第1回 陽だまりアンサンブルコンクール 》開催

東北初となる弦楽器によるアンサンブルコンクール【第一回陽だまりアンサンブルコンクール（以下、「コンクール」とする）】を実施し、その翌日にはコンクール入賞者とコンクール審査員が演奏をする【入賞者によるガラ・コンサート（以下、「ガラコン」とする）】を開催した。

弦楽器によるアンサンブルの普及と人材育成を目的とし、音楽による心の復興を図るそのために審査員・先生方と定期的に運営委員会で打合せて準備・広報活動を行った。

参加資格なし、年齢制限なし、プロ・アマチュア問わずといった誰でも挑戦・参加できるよう募集し、その結果幅広い経験年数・年齢の方が参加された。

コンクール参加組数は7組となり、計20名の審査が行われた。また、鑑賞者は67名となった。県外からのコンクール参加・鑑賞者がみられた。

ガラコン鑑賞者はWEB鑑賞を含め122名となり、多くの感動の声をいただいた。



○街角デモコンサートの実施

コンクールの広報、コンクールのイメージを地域に知っていただくため地域の事業所に協力していただき、デモコンサートを開催した。

鑑賞者・協力いただいた事業所から再公演希望の声を多くいただくことができ、次年度につながるコンサートとなった。

【開催場所・日時】

2022/6/19（日）午前 村田町歴史みらい館 鑑賞者数 53名
午後 J O C A 東北 鑑賞者数 45名



2022/7/3（日）午前 道の駅かくだ 鑑賞者数 56名
午後 やまもと夢いちごの郷 鑑賞者数 51名



【助成元】
・令和3年度 宮城県 NPO 等による心の復興支援事業
・令和4年度 宮城県 NPO 等による心の復興支援事業